

「ジェットロ海外事情報告会」の開催報告

平成 18 年 8 月 30 日 (水) 13:30 ~ 16:00 に日本財団 2 階大会議室にて、(社)日本中小型造船工業会との共催により、「ジェットロ海外事情報告会」を開催いたしました。



船技協・篠原専務理事の挨拶



船技協・田中グループ長からの
ジェットロ事業についての紹介

本講演会は、本会 篠原専務理事の挨拶に始まり、事務局からジェットロ事業についての紹介の後、上園政裕氏 から「ベトナム造船業の現況を中心とした東南アジア海事情」について、続いて、渡邊元尚氏からは「北米 LNG 事情と米州海事情」について、それぞれご講演いただきました（講演要旨及び講演者プロフィールについては、別添参照。）



上園 政裕 氏の講演



渡邊 元尚 氏の講演

両講演ともに、極めて関心の高いテーマであり、当日は、約 200 名という多数の方々にご来聴頂くことができました。



中小造工・萩原専務理事の挨拶



「ジェットロ海外事情報告会」会場

報告会開催にあたり、多大なご支援・ご協力を頂きました日本財団をはじめとする関係団体、ご講演者及びご来聴いただいた皆様に改めて厚く御礼申し上げます。

1. 議事次第

- a) 開 会
- b) 開会あいさつ (船技協 篠原専務理事)
- c) ジェトロ事業について (船技協 田中 企画・研究開発グループ長)
- d) ベトナム造船業の現況を中心とした東南アジア海事情 (上園 政裕 氏)
- e) 北米 LNG 事情と米州海事情 (渡邊 元尚 氏)
- f) 閉会あいさつ (中小造工 萩原専務理事)
- g) 閉 会

2. 講演要旨

2.1 「ベトナム造船業の現況を中心とした東南アジア海事情」【上園 政裕 氏】

- a) 最近のベトナムへの外国投資の動向が、内需拡大を狙った投資などへ少しずつ変化してきた。
- b) ベトナムへの投資環境の優位点としては、労働力、安定した情勢と治安の良さ、ASEAN 諸国及び中国へのアクセスの良さ、内需の潜在能力が挙げられる。一方、問題点としては、インフラ未整備、裾野産業が脆弱、法制度整備の遅れ、中間管理職の採用難がある。
- c) ベトナム造船業は、堅調に伸びている(2005年度上半期の総売上は、前年同期比97.8%の伸び)。
- d) 57カ所の造船所・修繕所があり、36,000人が雇用されている。57カ所の内、19カ所はベトナム国営造船所(VINASHIN)の傘下。その他は、国防省や省の人民委員会などの傘下。
- e) 造船所の新設・拡張により、2010年までには年間の修繕隻数延べ5,250件、742隻の新造船達成を目標とした計画がスタートし、造船業の発展を目指している。
- f) ベトナム造船業からは、資金援助、技術支援、人材育成の面について、日本に対する支援要望が強い。

2.2 「北米 LNG 事情と米州海事情」【渡邊 元尚 氏】

- a) 米国の天然ガス事情は、生産：世界第2位(世界の19%)、消費：世界第1位(世界の23%)、輸入：世界第1位(世界貿易の14%)。
- b) 米国の天然ガス利用のシェアは、産業用、電力用、家庭用、商用の順となっている。
- c) 米国内の天然ガス輸送は、パイプラインが基本であり、輸入も85%はカナダからパイプラインを利用したもの。
カナダからの輸入、国内生産量の頭打ちに伴い、LNG輸入が急増している。
- d) 米国本土で現在稼働しているLNG受入施設は、5箇所である。
新規の陸上受入施設建造は、規制・手続きが複雑であること、安全・環境に関する住民運動などにより困難になっているため、洋上受入施設が注目されている。
- e) 米国の大手造船業6社は、ノースロップグラマン(NG)とジェネラルダイナミクス(GD)の2大軍事産業体に集約。
GDのNASSCOと旧海軍工廠のアーカーフィラデルフィアで、大型商船建造のプロジェクトが実施されている。

3. 講演者のプロフィール

講演者のプロフィールは、次のとおり(講演順)。

上園 政裕 氏 : 海上保安庁 装備技術部 船舶課 上席船舶工務官
(前 ジェトロ・シンガポールセンター 船舶部長)

渡邊 元尚 氏 : 日本小型船舶検査機構 企画部 企画課長
(前 ジェトロ・ニューヨークセンター 船舶部長)

4. 本講演会に関するお問い合わせ先

お問い合わせ先 : (財)日本船舶技術研究協会 企画・研究開発グループ
仁平 一幸(にひらかずゆき)

TEL : 03-3502-2133、FAX : 03-3504-2350、e-mail : nihira@jstra.jp